

【報告】

福島市役所学習センター講師報告～万世大路の歴史

大滝会特別会員（万世大路研究会）鹿摩貞男

はじめに

平成27年2月4日（水）及び7月17日（金）、福島市学習センター主催で開催された各学習会で講義してきましたので下記の通り概要を報告します。

何れの会場も熱心に聴講して頂きその関心の高さを実感しました。時間の関係で質問の時間は十分に取れませんでした。講義終了後席までおいで頂き現地に行けるかのご質問があり、現地を見学したいと希望する方もおられました。また、拙い講義ではありましたがよく分かったとお褒めの言葉をかけて下さる方もおられました。

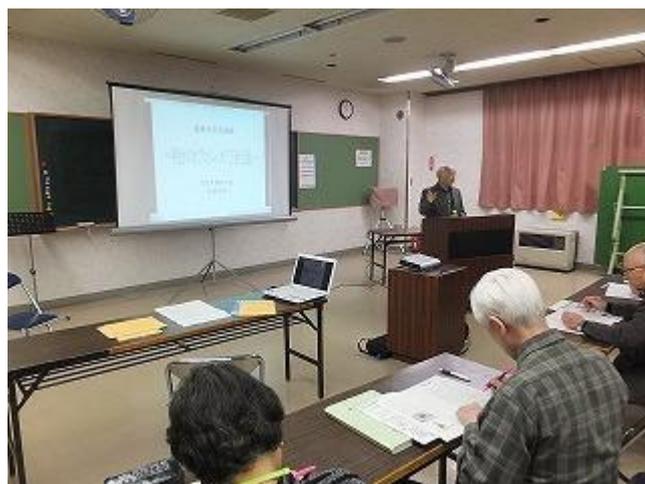
講義の中では本題の「万世大路の歴史」のほか、東北中央自動車道（福島～米沢）についてもご当局提供のパンフレットで紹介しています。これが自動車専用の高速道路であるにも拘わらず無料通行できるとお話し申し上げましたら、会場ではどよめきが起こっています。大半の方が有料と思い込んでおられる様子で、無料と聞いてびっくりしたようです。

〈講座①〉

開催日時	平成27年2月4日（水）10時～12時
場 所	福島市役所渡利学習センター 研修室
対象聴講数	40名 渡利所支所管内「渡利グレートアカデミー」 （高齢者（60～75歳）を対象とした歴史のこと等を学ぶ地域の学習会）
講 話	明治の大プロジェクト「万世大路」 講師：万世大路研究会、大滝会特別会員 鹿摩貞男
主 催	福島市役所 渡利学習センター



【写真-1】 福島市役所渡利学習センター



【写真-2】 明治の大プロジェクト「万世大路」



【写真-3】 東北中央自動車道(福島～米沢)の紹介



【写真-4】 質問の時間

〈講座②〉

開催日時 平成27年7月17日(金) 10時～11時30分
 場 所 福島市役所もちずり学習センター 研修室
 対象聴講数 120名
 東部支所管内「もちずりことぶき大学」
 (高齢者(60～75歳)を対象とした歴史のこと等を学ぶ地域の学習会)
 講 話 明治の大プロジェクト「万世大路」
 講師：万世大路研究会、大滝会特別会員 鹿摩貞男
 主 催 福島市役所 もちずり学習センター



【写真-1】 福島市役所もちずり学習センター



【写真-2】 明治の大プロジェクト「万世大路」



【写真-3】 東北中央自動車道(福島～米沢)の紹介



【写真-4】 熱心な聴講生の皆さん

講義概要：明治の大プロジェクト「万世大路」について

万世大路は3世代に亘り続いていることやその建設の意義・工事状況、時期等概要について述べています。

まず明治14年10月3日に、明治天皇ご臨席のもと開通式おこなわれた初代の万世大路は、人・荷車（荷馬牛車）を対象とした道路であったこと、福島県側は中野新道、山形県側は刈安新道と称し両県が約定を結び協力して工事が進められたこと等について説明しました。栗子隧道（約870m）をはじめとして工事は困難を極めたけれども関係者の努力で見事に完成させたものである。特に栗子隧道工事では、アメリカから掘削機を輸入しておこなわれたけれども、貫通に当たっては東西から掘り進められた導坑が上下左右ピタリと一致し当時の測量技術がいかに高かったかについて説明しています。開通翌年の明治15年2月には天皇陛下から「万世大路」の名前を賜ったこと、開通後は大変な賑わいを呈したこと等についてお話ししました。また、その万世大路の意義についても解説しています。

その後、明治32年5月の奥羽線の開通を契機として万世大路の利用者が激減したこと。しかし、日本も昭和に入り自動車の保有台数が増加し産業経済の発展の為に、自動車の通行可能な道路が必要とされ、昭和8年4月から昭和12年3月の4箇年に亘り昭和の大改修がおこなわれたこと。工事は内務省直轄でおこなわれ、最盛期には1,000人もの人々が山中に合宿し作業に当たったことなどエピソードを交えて述べています。また、昭和の大改修の大きな特徴として、板谷駅から二ツ小屋隧道米沢側坑口現場まで約11kmに及ぶトロッコ線路を敷設して資材運搬がおこなわれたことなどを紹介しました。また、昭和の大改修がおこなわれた背景についても説明しています。

栗子隧道の米沢側では明治隧道と昭和期隧道の坑口が二つ並んでいることについてその理由を説明しました。

昭和の大改修の完成後は一応自動車の通行可能な道路として約30年に亘って使用されました。

しかし万世大路、当時の国道5号（後の国道13号）は、未舗装砂利道の上、冬期5箇月間は交通

止めであったこと。戦後、自動車保有台数の飛躍的な増加と経済の発展により通年交通の可能な近代的な国道が必要とされ、昭和 36 年 10 月から昭和 41 年 5 月にかけて山岳部の抜本的な改築工事が建設省により実施されたこと。山岳部の改築工事終了後は冬期交通も可能な近代的な道路となり現在に至っていること等を説明しています。

また現在は、4 代目とでも呼ぶべき第 4 世代の東北中央自動車道の建設が国土交通省によって進められており、平成 29 年度中の開通を目指していることを紹介し講話を終えました。

終わりに

※ 講習会テキストの公開 ※

今回、講習会で使用したテキストを改題のうえ増補改訂したものを公開します。

[別添『万世大路読本』](#)です。皆様のご参考になれば幸いです。